

# 年10%で増加するファイルサーバーをWasabiに拡張することで30%のコスト削減を実現

「NetAppのデータ保存領域をWasabiに拡張することで、これまでの使い勝手はそのままに安価なストレージ領域が大きく広がりました。すでに管理コストの30%削減を達成していますが、使えば使うほど効果が高くなっていると実感しています。今後は各現場のデータや各国拠点のログなど、さらに膨大なデータを収集・活用する場としていきたいと考えています」

東芝インフォメーションシステムズ株式会社  
ITプラットフォーム推進部 部長 濁川 克宏氏

## 概要

全世界で10万人規模の従業員を抱える東芝グループ。東芝インフォメーションシステムズは、765人のメンバーで、東芝本社の情報システム部門が立案する戦略やルールに基づいてグループ内の社内ITシステムの構築や運用・保守を担当しています。

同社のサービスの中でITプラットフォーム推進部は、主に情報通信インフラサービスであるネットワークやサーバー、クラウドサービスのグループ内展開が中心。ほかにも東芝の「サイバーセキュリティセンター」業務を通してセキュリティの運用にも携わるなど、東芝グループのDXにとって欠かせない存在です。

## 課題

東芝グループが抱えていた課題は、大きく分けて2つ。「右肩上がりに増えるデータ」と「それに伴って増える管理コスト」です。

まずデータの課題について、同社ITプラットフォーム推進部 部長 濁川 克宏氏は次のように語ります。「東芝グループではデータ容量1PBという大規模なファイルサーバーを運用しています。しかも日々の業務を通してデータが蓄積するため、データ量は1年間で約10%増加し続けています」。

これらのデータを格納するファイルサーバーとして、同社はオンプレミスのNetAppを利用しています。しかし、4、5年先までのデータ増加を見越してオンプレミスのストレージを購入するのは、大きな投資になります。しかも、予想されるデータ量に達するまでは「多めに買ったストレージが無駄になる」ことが明らかでした。

一方で、濁川氏がファイルサーバーのアクセスデータを調べたところ、直近1ヶ月以内にアクセスされたデータは全体のわずか10%程度であることがわかったそうです。

「ほとんどのデータが過去1年以内にアクセスされていませんでした。なかには5年以上ものあいだアクセスされていない領域もありました」と濁川氏は振り返ります。

## 顧客

東芝グループ

# TOSHIBA

## 業種

製造業

## ユースケース

自動階層化

## 課題

- ・ 年10%ずつ増えるファイルサーバーのデータ容量
- ・ ストレージの増設・管理コストの増大

## ソリューション

Wasabi Tiering for NetApp

## 結果

- ・ ストレージの管理コストを30%削減
- ・ 事業部門のデータ保存ニーズへの迅速な対応
- ・ 各部門にあったファイルサーバーの廃止による運用負荷の軽減



東芝インフォメーションシステムズ株式会社  
ITプラットフォーム推進部 部長  
濁川 克宏氏

## ソリューション

この課題を解決するソリューションとして、採用したのはNTT Communicationsが提供するWasabi Tiering for NetAppです。このソリューションは、NetAppの「階層化」機能を利用して、NetAppに保存されているデータのうちアクセス頻度の少ないもの（コールドデータ）を拡張されたWasabiに自動的に転送し、保存するものです。

東芝グループでは2022年9月より同ソリューションを本格導入しています。過去1ヶ月間にアクセスのあるホットデータを中心にデータの15%をNetAppに残し、それ以外の85%のデータをWasabi Hot Cloud Storageに格納するように設計しました。ユーザーがアクセスするのはオンプレミスのNetAppで移行前と変わらないため、ユーザーの操作感が変わらず、低コストのWasabiのストレージにほとんどのデータを配置することで大幅なコスト削減を可能にしました。

なおNetAppの階層化機能はWasabiだけでなくAWSなど他のクラウドストレージにも対応しています。Wasabiを選んだ理由について、濁川氏はこのように語りました。

「Wasabiを選んだ理由のひとつはコストの安さ、もうひとつは東芝のクラウドスタンダードに準拠していたためです。加えて当社ではNetAppのインテグレーションをNTT Communicationsにお願いしているのですが、WasabiならNTT Communicationsのデータセンター内で完結できることも決め手になりました。東芝ではBCP計画の観点からファイルストレージを東京と大阪に分散させていますが、NTT CommunicationsのデータセンターならNetAppとWasabiのどちらもそれぞれの地域に分散配置できます」。

## 結果

Wasabiの導入は、まずは少数のユーザーを対象としたテストから始まりました。「主に10%のデータにしかアクセスしないといっても、古いデータにアクセスする必要が生じたときに『ものすごく遅い』ようでは使い物になりません。その点はしっかりと検証しました」と濁川氏は振り返ります。

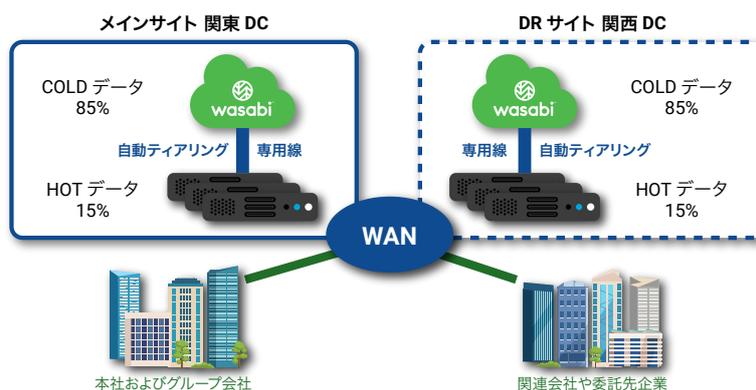
検証当初は「それなりに時間がかかった」（濁川氏）ものの、数ヶ月の運用を経てインデックスが最適化されたことで、十分に満足できるアクセス速度を確保できたとのこと。

データ量が膨大だったこと、利用部門が非常に多かったため本格導入には時間がかかりましたが、結果は満足のいくものでした。導入効果として濁川氏が挙げるのは以下の3点です。

- ・ 管理コストの30%削減を達成した
- ・ 事業部門のデータ保存ニーズへの迅速な対応
- ・ 各部門にあったファイルサーバーの廃止による運用負荷の軽減

特にコスト削減については「データの容量が増えれば増えるほど、コスト削減効果が高くなる」とのこと。東芝では今後の事業の変化を見据え、現在はまだクラウド化されていない膨大なデータの活用を計画しています。Wasabiには、それらのデータを集め、集積しておく場所としての役割が期待されています。

「Wasabiの品質には満足しています。NTT Communicationsの安定したプラットフォーム上で展開されていることもあり、大きな事故などありません。今後は日本国内だけでなく、グローバルにもWasabiを使っていきたいと考えています」と濁川氏は語ってくれました。



### Wasabiについて

Wasabiは、シンプルで予測可能な手頃な価格のHot Cloud Storage世界中の企業に提供しています。複雑な階層や予測不可能なEgress料金を必要とせず、競合他社の5分の1の価格で無制限のデータを保存し、即座にアクセスすることを可能にします。Wasabiは、米国ボストンを拠点としており、テクノロジー分野で最も急速に成長するイノベーター企業の一つとして評価されています。WasabiはBoston Red SoxのProud Partnerであり、Liverpool Football ClubとBoston Bruinsのオフィシャルクラウドストレージパートナーでもあります。

日本では東京と大阪でストレージセンターを運用しています。

詳しくは、<https://wasabi.com/ja/> をご覧ください。

©2023 Wasabi Technologies LLC. All rights reserved. WASABIおよびWASABIロゴはWasabi Technologies LLCの商標であり、Wasabi Technologies LLC.の許可なく使用することはできません。ここに記載されている他のすべてのブランド名は識別のみを目的としており、それぞれの所有者の商標である可能性があります。

Wasabi Technologies Japan合同会社  
Email: [japansales@wasabi.com](mailto:japansales@wasabi.com)



[www.wasabi.com/ja/](https://www.wasabi.com/ja/)